

2024年度
自己点検・評価 報告書

学校法人 麻生塾
麻生情報ビジネス専門学校北九州校

自己点検・評価報告書

この自己点検・評価報告書は、麻生情報ビジネス専門学校北九州校の2024年度の自己点検・評価活動の結果を記したものである。

作成日 2025年 1月 31日

麻生情報ビジネス専門学校北九州校

目次

I 教育理念・教育目標(育成人材像).....	- 3 -
II 重点項目.....	- 4 -
III 基準項目 自己点検・評価.....	- 7 -
基準 1 教育理念、目的、育成人材像.....	- 7 -
基準 2 学校運営.....	- 8 -
基準 3 教育活動.....	- 13 -
基準 4 学修成果.....	- 19 -
基準 5 学生支援.....	- 21 -
基準 6 教育環境.....	- 23 -
基準 7 学生募集.....	- 25 -
基準 8 財務.....	- 26 -
基準 9 法令遵守.....	- 27 -
基準10 内部質保証.....	- 28 -
基準11 社会貢献・地域貢献.....	- 29 -
基準12 国際交流.....	- 30 -

評価結果

- S:適切
- A:ほぼ適切
- B:やや不適切
- C:不適切

I 教育理念・教育目標(育成人材像)

■教育理念

1. 深い専門知識と高い技術力を持ち、自己研鑽に励むことのできる人材を育成します。
2. 多様な価値観を受入れ、豊かな感性を伸ばし、自己成長できる人材を育成します。

■教育目標

【コンピュータシステム科】

IT業界でコンピュータエンジニアとして活躍するために必要な知識や技術を身につけ、ソフトウェア開発企業や一般企業のシステム開発部で活躍できる人材を育成する。

【システムエンジニア科】

IT業界で高い技術力を持ったエンジニアとして活躍するために必要な知識や技術を身につけ、高度情報化社会の中で活躍できる人材を育成する。

【ゲームクリエイター科】

ゲーム開発に必要な各種プログラミング言語などの知識や技術を習得し、ゲーム業界やIT業界で長く活躍できる人材を育成する。

【オフィスビジネス科】

多様化するオフィス環境や医療現場で即戦力として対応できる事務スキルを持った人材となるための専門技術、知識、検定資格を身につけ様々なオフィスビジネスシーンで幅広く活躍できる人材を育成する。

【CGデザイン科】

クリエイティブ業界の業務に必要な知識と技術を身につけ将来業界人としてプロ意識を持ち活躍できるマインドを持つ人材を育成する。

■3つのポリシー

(1)アドミッション・ポリシー

本校は、“職業を通じて社会に貢献する産業人は私利私欲を捨て「無私」の心を持つ者であらねばならない”という麻生塾創立以来の信念に基づき、高度な専門スキルと人間性を身につけ、業界の第一線で活躍する“自ら考え、自ら判断し、自ら行動する”人材を育成することを目指します。

このような教育理念・目標を実現するために、以下のような資質を備えた方々を積極的に受け入れます。

1. 感謝と思いやりの心を持ち、何事に対しても熱意と情熱を持って取り組むことができる方
2. 社会の一員として、職業を通じて世の中の発展に役立ちたいと考える方
3. 相手の立場や考え方の違いを理解し、その差異を肯定的に受け止められる方

(2)カリキュラム・ポリシー

【コンピュータシステム科】

IT 分野では、コンピュータのスペシャリストとして業界をリードしていくため、資格や技術力を有する人材が必要となります。コンピュータシステム科ではプログラムの基礎から応用までを幅広く学習、国家資格やベンダー資格を取得し、ソフトウェア開発企業や一般企業のシステム開発部門で活躍できるエンジニアを育成することを目標に、授業科目を開設します。

また企業や業界動向に詳しい有識者より意見を聴取し、業界ニーズを踏まえた科目開設を実現します。

【システムエンジニア科】

IT 分野では、コンピュータのスペシャリストとして業界をリードしていくため、資格や高い技術力を有する人材が必要となります。システムエンジニア科では情報処理技術を中心に、システム開発について基礎から応用まで幅広く学習し高度な知識や論理思考を身につけ、国家資格やベンダー資格を取得、高いレベルのシステムエンジニアやプログラマを育成することを目標に、授業科目を開設します。

また企業や業界動向に詳しい有識者より意見を聴取し、業界ニーズを踏まえた科目開設を実現します。

【ゲームクリエータ科】

ゲーム業界において、開発者に求められることは企業によって様々ではありますが、大きく 3 つ挙げることができます。

- ・高いゲーム開発技術力
- ・ゲームの面白さを分析する能力
- ・チーム制作において活躍できる人間力

以上の 3 つを学生が身につけるために必要な授業科目を開設します。

授業科目の開設にあたっては、日々変化するゲーム業界の技術や開発環境に対応するため、ゲーム業界の開発現場から情報を得ながら検討します。

【オフィスビジネス科】

本学科では、人材育成像に則り、目的意識を持ち積極的に行動し、思慮深く協働の精神を併せ持った人材を育成します。

学生が主体的に学習できるようカリキュラムを編成し、これに従って教育を実施します。

[情報ビジネス専攻]

- ・実務能力を身につけることを目的とし、アプリケーション実技科目及び知識科目を設置します。
- ・多様化するオフィス環境において事務処理能力だけでなく総合力を持った人材を育成するための教養科目を設置します。
- ・即戦力のみならず豊かな人間性を持ったビジネススペシャリストの人材を育成するためのマナー教育科目を設置します。
- ・身につけた知識を活かし発展的な思考を身につけるためのプレゼンテーション科目などを設置します。
- ・科目の開設にあたっては、企業や業界動向に詳しい有識者より意見を聴取し、社会ニーズを踏まえた科目開設を実現します。

[医療事務専攻]

- ・医療事務員に求められる専門教育と社会人教育で、即戦力となるスキルを習得します。
- ・意欲的な心構え・目標設定・チャレンジ精神について自ら考えるキャリア教育と教養教育により、人間力を高めます。
- ・医療現場の意見と評価を踏まえ、多様な医療機関と幅広い職種から実習先を選び体験する実践的な職業教育を実施します。

【CG デザイン科】

デザイン業界を含むクリエイティブ業界で顧客が求めるデザインができる人材、また企画、提案も含めた総合力をもった人材を要請します。主にグラフィックデザイン、Web デザイン、イラストレーション、CG 映像制作の4分野を学習し、制作に応用するカリキュラムを設置します。

また企業や業界動向に詳しい有識者より意見を聴取し、業界ニーズを踏まえたカリキュラムを実現します。

(3)ディプロマ・ポリシー

本校では、教育目標(人材育成像)を踏まえ、以下のような知識・態度・能力を備えた学生に対し、卒業を認定します。

1. 専門分野における実践的な専門知識・技術を修得し、それを活用する能力
2. 目的意識やチャレンジ精神を持ち、自ら積極的に行動する能力
3. 協働の精神を備え、社会に貢献する能力

Ⅱ 重点項目

1. 重点項目

- ①業界ニーズ特性に合わせたカリキュラムの見直し
- ②退学抑止に向けた取り組み

2. 取り組み状況

①システム系業界の就職活動の開始時期が早期化している特性を踏まえ、キャリア教育の実施開始時期を見直した。事前の動機付けと企業研究の促進のために、学科行事として7月に実施された『西日本 DX 推進フェア 2024』にコンピュータシステム科1年生とシステムエンジニア科 1 年生の学生48名全員で参加し、自己の将来を見据える機会とした。また、就職キックオフ(学生が就職活動を本格的に開始するための準備イベント)を昨年度は12月に実施したが、9月に実施時期を前倒しして実施することで、年々早期化する採用時期への対応を行った。

②学生の満足度向上による退学抑止に向けた取り組みとして、すべての教職員が学生と接する機会をつくり他学科の学生ともコミュニケーションを図る機会を整えるため、以前から実施していたあいさつ運動の実施方法について当番制に変更した。また、教職員が接遇マナーの基礎を学び直し、効果的な指導を再認識する機会とするために教職員向けのマナー指導研修を実施することで、学生に対する指導についてレベルの統一を図った。

3. 総括(成果と課題)

① 入学後3か月余りで BtoB 対象の IT フェアに学生を参加させたことは、農業から宇宙開発業界まで幅広い分野で IT 技術が活用されている現状を、見聞する機会となった。就職に対する学生への動機づけにおいては、昨年度より3か月前倒しで「就職キックオフ」を実施した。就職活動を開始する準備段階として実施している授業実施時期を前期に変更することで、学生が多岐にわたる IT 関連の企業研究や、自己分析を十分に行う時間を確保するようにする。

②教職員が当番制で挨拶運動を実施することにより、教室内だけでなく、学生の登校時の様子も把握できるようになった。また、普段接する機会が少ない学生とも学科を超えた交流が生まれた。学生が、普段かかわることの少ない他学科の教員と交流する機会も生まれ、多くの教員が見守ることで安心感の醸成に繋がった。さらに、教職員と学生の挨拶意識が高まったことで、校内の雰囲気も良くなった。来校者に対しても印象の良い挨拶をする姿が増えている。また、入館時にイヤホンを外すなどのマナーの向上も見られた。引き続き、継続して実施していく。

Ⅲ 基準項目 自己点検・評価

基準 1 教育理念、目的、育成人材像

中項目1-1

法人の理念、学校の教育理念、学科の教育目的・育成人材像を定め、学校構成員に周知を図り、社会に公表しているか。

【取り組み状況】

法人の理念を踏まえ、学校の教育理念、学科の教育目的・育成人材像についてはきちんと明文化され、学校グループのホームページへ掲載されたものを通じ、各教職員から学生・保護者等・企業へ周知を図っている。また、学生便覧に掲載し全学生に配布しており、入学直後のオリエンテーションでも、法人の理念・学校教育理念・教育目的・育成人材像について周知している。

【課題及びその改善方策】

特になし。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
1-1-1	「学校の教育理念」を定め、学校構成員(すべての教員、職員、学生)及び関連業界に周知を図り、社会に公表しているか。	S
1-1-2	各学科の教育目標(育成人材像)を定め、学校構成員(すべての教員、職員、学生)及び関連業界に周知を図り、社会に公表しているか。	S

=====
基準 2 学校運営
=====

中項目2-1

学校の教育理念に沿った運営方針を定めているか。

【取り組み状況】

学校の教育理念に沿った運営方針を定め、規定通りに運営することができている。説明用の資料を作成し、2024年4月5日(金)にキックオフミーティングにおいて教職員に対して周知・共有を行った。

【課題及びその改善方策】

特になし。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
2-1-1	学校の教育理念に沿った運営方針を策定しているか。また、運営方針を教職員に周知しているか。	S

中項目2-2

事業計画を作成し、執行しているか。

【取り組み状況】

運営方針に沿った事業計画書を策定している。作成した事業計画や学校組織図については、キックオフミーティングにて全教職員に周知を行っている。執行状況は、責任者を通じて定期開催されるリーダー会議や月1回の全体会議において全員で確認している。資料については、学校のサーバーに保管し、常に教職員が確認することが可能である。

【課題及びその改善方策】

特になし。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
2-2-1	運営方針に沿った事業計画を策定し共有しているか。	S
2-2-2	事業計画は適正に執行されているか。	S

中項目2-3

運営組織や意思決定機関は効率的なものになっているか。

【取り組み状況】

法人としての運営組織や意思決定機関は明文化され、有効に機能している。理事長・副理事長・常務理事・理事・本部長・監事が参加する常任理事会を隔月開催しており、組織の課題等について合議している。また、各校・各部門の校長代行、部門長以上が情報共有を行う部門長会議など各階層別・目的別で必要な会議体が設計されており、計画通りに開催されている。

学校運営については学校組織図に基づき各種会議の整備・運営を行っている。管理職会議・リーダー会議・学科会議・教務会議など、各種会議体により定期的な情報共有を行い、学校・学科の方針等を認知し対応できる体制を整えている。また、月に1回、全教職員対象の全体会議を実施し、情報共有と状況確認を行っている。会議や朝礼は情報共有ツールである Microsoft Teams(製品名)を利用することで参加しやすい環境を整えるとともに、録画を行うことによって、後日再確認が可能な体制としている。校務分掌については担当者の複数人化を推進することで相互チェックが可能な体制となっており、また、教職員の業務の幅を広げ、属人化の解消を目指している。

また、学校業務を支援するための事務組織が設置され、姉妹校と連携しながら円滑に機能している。

事務職員の意欲や資質・能力の向上を図るために、上長は職員に期待する分野の研修等への参加を提案している。その提案を達成するため、各自、研修参加計画や能力開発プロセスを立て、目標設定シートに記し進捗状況を上長へ報告している。

【課題及びその改善方策】

特になし。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
2-3-1	法人の運営組織や意思決定機能は規程等において明確化されているか。また有効に機能しているか。	S
2-3-2	学校あるいは部門の運営組織や意思決定機能は明確化されているか。また有効に機能しているか。	S
2-3-3	運営会議(教職員会議・教員会議等)が定期的に行われているか。	S
2-3-4	学校業務を支援する事務組織が設置され、十分に機能しているか。	S
2-3-5	事務職員の意欲や資質・能力の向上を図るための方策を講じているか。	S

中項目2-4

人事・給与に関する制度を確立しているか。

【取り組み状況】

就業規則をはじめとした人事諸規程および労使協定書が法令に遵守し整備されている。

また、法人運営方針や労働関連法改正に対応し各規程のメンテナンスを実施している。

諸規程は全教職員が閲覧できるよう電子ファイルにて公開されており、変更の際は新旧対照表とともに教職員へ周知されている。

2024年4月の人事制度改正にて、新制度設計の整備が完了し、教職員への変更点説明会を実施し周知を行った。併せて、各個人の理解が深まるよう新旧対照表とともにFAQを公開し周知されている。

採用活動においては年間採用計画をもとに、募集を自社ホームページや外部媒体に適宜掲載し欠員・充足状況等をふまえ更新している。選考過程ではシステムに経過や決裁等を記録保管し、適正に活動をすすめている。

【課題及びその改善方策】

特になし。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
2-4-1	人事に関する制度を整備しているか。	S
2-4-2	給与に関する制度を整備しているか。	S
2-4-3	昇給・昇格制度を整備しているか。	S
2-4-4	教職員の募集・採用は適切に行われているか。	S

中項目2-5

情報システム化等による業務の効率化が図られているか。

【取り組み状況】

学生の学籍や成績等の必要な情報については、麻生塾システムにて管理されており、教職員すべてが情報の共有化を行っている。基本的には対面による授業を行っているが、内容によってはオンラインによる授業やハイブリット型授業(対面授業／オンライン授業)による授業の方が効果的なものもあり、Microsoft Teams(製品名)などの情報共有ツールを用いることで、教育の質の向上を図ることができている。

【課題及びその改善方策】

特になし。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
2-5-1	情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか。	S

=====
基準 3 教育活動
=====

中項目3-1

教育理念、教育目標(育成人材像)に沿った教育課程を編成・実施しているか。

【取り組み状況】

教育理念および教育目標(育成人材像)に基づき、ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーを策定し、学生便覧に掲載して教職員および学生に周知している。また、各学科のカリキュラム・ポリシーや授業内容を記載したシラバスをホームページで公開しており、詳細をインターネット上で誰でも確認可能である。

年2回、連携企業、校長代行、教職員が参加する教育課程編成委員会を開催し、カリキュラムの検討を行っている。この委員会を通じて、教育課程の定期的な見直しと向上を図っている。

【課題及びその改善方策】

特になし。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
3-1-1	教育目標(育成人材像)に基づきディプロマ・ポリシーを明示し、また学校構成員(教職員及び学生等)に周知し、社会に公表されているか。また定期的に検証を行っているか。	S
3-1-2	教育目標(育成人材像)に基づき教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)を明示し、また学校構成員(教職員及び学生等)に周知し、社会に公表されているか。また定期的に検証を行っているか。	S

中項目3-2

教育課程の編成・実施方針に基づき、教育課程・教育内容は適切に行なっているか。

【取り組み状況】

学校教育法で定められた授業時間数を満たすカリキュラムを体系的に編成している。教育課程編成委員会などを通じて企業等から意見を収集し、教育目標や業界ニーズに基づいた授業を実施するため、カリキュラムの一部を見直し、授業内容の充実に努めている。

授業シラバスは、授業開始時に科目担当教員から学生に配付しているほか、学校のホームページでも公開しており、インターネット上で確認可能である。授業報告の記載内容についても、以前よりも充実が見られる一方で、教育効果や理解度の評価・検証には不十分な点も確認されている。

企業等と連携した実習では、実施要綱に基づき学生に対し事前・事後の指導を行っている。また、覚書の取り交わしや実習評価表を用いた評価を企業担当者に依頼している。評価表によって抽出された課題については振り返りを行い、次年度の実習および就職活動に反映させている。

キャリア教育については、就職実務や GCB 教育(グローバルシティズン・ベーシック、麻生塾独自のキャリア教育プログラム)などの授業を通じて、社会的・職業的自立に必要な基盤となる能力や態度の習得を図っている。また、就職活動開始時期の早期化が顕著なシステム系の学科については、事前の動機付けや企業研究の推進を図るための業界関連イベントへの参加を促すとともに、企業の採用活動の開始時期に合わせて就職キックオフを実施することで、学生のキャリアに対する意識の向上を図ることができた。

【課題及びその改善方策】

課題は特にないが、今後も時代のニーズに即した、より実践的・専門的な教育課程を編成できるように柔軟に対応していく。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
3-2-1	教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	S
3-2-2	業界のニーズを踏まえ、実践的な職業教育の視点に立った教育内容(学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保等)が提供されているか。	S
3-2-3	専攻分野に関する企業・関係施設等や業界団体と連携して教育課程の編成を行っているか。	S
3-2-4	授業科目の目標を達成するための授業内容や授業方法になっているか。	S
3-2-5	授業及び実習に関するシラバスは作成しているか。	S

3-2-6	シラバスに基づいてコマシラバスを作成しているか。	S
3-2-7	授業はシラバス及びコマシラバスに基づいて実施しているか。	S
3-2-8	専攻分野における実践的な職業教育(インターンシップ、企業等と連携した実習・演習等)を教育課程に体系的に位置づけ、実施しているか。	S
3-2-9	キャリア教育を行ない、学生の社会的・職業的自立に向け必要な基盤となる能力や態度を育成しキャリア発達を促しているか。	S

中項目3-3

教育の評価を適切に行っているか。

【取り組み状況】

授業評価については、前期・後期ごとに在校生に「授業アンケート」を実施し、シラバスに基づいた授業であるか否かの評価を実施している。

また、今年度導入された麻生塾独自の学習アプリである Teachare(麻生塾独自のラーニングマネジメントシステム「Teachare」(ティーチャー、麻生塾独自のラーニングマネジメントシステムで学習教材の配信や授業成績などを統合し管理するシステムのこと。「Teachare」は 教える(Teach)と共有する(Share)を組み合わせた造語)の授業ごとに学生が授業内容を振り返り学習理解度をレポートする「学レポ」機能を利用し、定期的に学生の意見を聴取し、学生の理解度の把握や授業科目の目標に対する到達度の指標として活用している。

授業科目の到達目標に対して授業方法が適切であるかについては、検定結果等により検討している。理解不足の分野や新規出題分野について授業内容や方法の再検討・改善を行った。

授業アンケートの結果については、その結果に基づいて責任者から各教員にフィードバックを行っている。

【課題及びその改善方策】

講師への期末授業アンケート結果に対するフィードバックは行われているが、改善のための具体的なアドバイスやサポートなどは不足しているのが現状である。また、非常勤講師へのフィードバックについては、検定試験に向けて模擬試験の得点状況や検定の合格状況、授業アンケートの結果や学生コメントは伝えているものの、回答結果をもとに授業へ反映できるタイミングとしては適切ではない。「Teachare」の「学レポ」機能だけでなく、単元ごとに授業の理解度の確認を行うためのミニアンケートやミニテストを適宜、実施することで、学生の理解度の把握を図っていく。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
3-3-1	授業評価体制を整備しているか。	S
3-3-2	学生によるアンケート等で定期的に授業評価を実施しているか。	S
3-3-3	授業科目の目標に照らし、教育内容・授業方法が適切であるか確認しているか。	S
3-3-4	授業評価の結果を教員にフィードバックしているか。	A
3-3-5	授業評価の結果をもとに、授業内容・授業方法の改善を図るための取り組みを行っているか。	S

中項目3-4

成績評価と単位認定を適切に行っているか。

【取り組み状況】

学校教育法に定められた授業時間数を満たすカリキュラムを体系的に編成している。また、学内で定めた成績評価基準に基づき、適切に評価を行っている。成績評価、単位認定、進級および卒業判定の基準は規程として定め、学生便覧に記載し、学生および教職員に周知している。さらに、各科目の評価基準についてはシラバスに明記し、学生に対して明確に示している。

成績入力は複数の教員によるダブルチェックを実施し、評価や入力の誤りがないよう徹底している。これらの規程に基づき、年度末には卒業判定会議および進級判定会議を開催し、卒業および進級の判定を行っている。

【課題及びその改善方策】

特になし。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
3-4-1	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか。	S
3-4-2	学生や保護者等に、成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準、進級要件、卒業要件を適切に明示しているか。	S
3-4-3	各規程に基づいて適切に成績評価・単位認定、進級・卒業判定を行っているか。	S

中項目3-5

教育活動を確実に実践するために、教育体制の整備を適切に図っているか。また教員の能力開発のための資質向上の取り組みを行っているか。

【取り組み状況】

教員の組織配置については法令に則り、資格・要件を備えた教員を確保し、分野ごとに必要な教員体制を整備している。新任の教職員に対しては指導担当者(チューター)を配置し、新任研修を計画的に実施したうえでOJT(オン・ザ・ジョブ・トレーニング、実際の職場で実務を通して学ぶ訓練)を行い、指導力の向上や組織への順応を図っている。

今年度は、非常勤講師が担当する科目の多い学科については、校務分掌にて窓口となる担当者を定めることで情報共有を行う体制を整え、受験した検定結果やポートフォリオ、授業進度などの学習成果について、適宜、情報共有を行っている。

新任や新たに管理職となる教職員については、計画に基づき、必要な研修が実施されている。

外部機関の実施する研修の利用や学校法人麻生塾教育推進グループ(以下「教育推進グループ」という)が主催する研修の機会を積極的に活用し、教員の専門性や指導力等の維持、資質・能力向上を図り、その内容について報告している。上長は報告書の内容をもって、今後の改善計画や担当業務を勘案する。専門分野の情報の更新や新たな知識の習得、学生に対する指導力の向上を図るための研修には、積極的に参加している。

【課題及びその改善方策】

課題は特にないが、更なる教職員の質の向上を図るために、研修時間の確保に取り組んでいく。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
3-5-1	法令に則り、学校の教育理念・教育目標の達成に必要な教員を確保しているか。	S
3-5-2	教員の組織体制を整備しているか。	S
3-5-3	教員に必要な知識・技能を身に付け、資質・能力の向上を図るための取り組みを行っているか。	S
3-5-4	教員に対して、専攻分野に係る関連分野の企業等と連携して、実務に関する研修・研究に組織的・計画的に取り組んでいるか。(AFTC 日本語科・APC 高等課程を除く)	S
3-5-5	教員に対して、企業等と連携して、指導力・教授力を習得、向上するための取り組みを行っているか。	S

=====
基準 4 学修成果
=====

中項目4-1

学科ごとに学生の学修成果を中心とした目的・目標を設定して教育活動を行い、多様な視点から成果の達成状況を把握し、改善に活用しているか。

【取り組み状況】

学科ごとに国家資格試験や各種検定、コンテストの入選目標数を年度当初に設定し、進捗状況や結果を共有している。その結果をもとに、各担当者・学科内にて振り返りを行い、次年度のカリキュラムや授業内容の改善に努めている。

就職年次の担任と就職担当者が定期的に就職部会を行い、学生の就職状況や求人情報について情報共有を行ったうえで、支援方法について検討を行っている。

退学率の軽減の取り組みとして、担任との個人ガイダンスを年に数回行うとともに、必要に応じて保護者等と情報を共有している。

【課題及びその改善方策】

カリキュラムマップの作成については、一昨年度より3か年計画で作成中であり、年度内に完成見込みである。ただし、単位制への移行について詳細な検討の必要性が発生したことから、再度、単位数の要件等を踏まえて更新していく。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
4-1-1	就職率・就職者の割合の向上の取り組みを行っているか。また結果を分析し、就職指導・支援の改善を図っているか。	S
4-1-2	退学率の低減が図られているか。また結果を分析し、退学率を低減させる取り組みを行っているか。	S
4-1-3	資格取得率、公務員合格率及びコンテスト・コンペ入選数の向上の取り組みを行っているか。また結果を分析し、教育活動及び学生支援の改善を図っているか。	S
4-1-4	資格取得等に関する指導体制及びカリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。	A

中項目4-2

卒業生の社会的な活躍および評価を把握しているか。

【取り組み状況】

卒業生の社会的な活躍および評価を把握するため、採用先企業に協力を仰ぎ、卒業生の貢献度合いや大学生・他の専門学校生との比較における優劣、学校として改善すべき点、学校への要望などについてアンケートにて確認している。また、アンケート結果については、必要に応じて授業等で共有し活用している。

卒業生の状況については、就職担当職員が企業から聞き取りを行い、就職部会等にて教員に共有をおこなっている。また、卒業生から元担任への近況報告なども共有を行っている。

【課題及びその改善方策】

卒業生の卒業後の就業状況については、十分把握できているとは言えない。卒業生の動向や活動実績について定期的に確認できる仕組みを検討していく。アンケート結果に対する検証および改善計画が不十分である。求められる人材像を教務部門と共有することで、企業のニーズに即した教育を行っていく。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
4-2-1	卒業後の専攻分野におけるキャリア形成への効果を把握しているか。また、それを踏まえ教育活動等の改善を図っているか。	S
4-2-2	卒業生の卒業後の動向や就業状況を調査・把握しているか。	A

=====
基準 5 学生支援
=====

中項目5-1

学生に対する修学支援、生活支援、進路支援に関する支援組織体制を整備し、学生が学修に専念し、安定した学生生活を送ることができるように図っているか。

【取り組み状況】

学生の就職・進路支援は、担任教員指導のほか、事務局もカウンセリングを行い、その指導記録を担任と共有している。また、就職活動においては、事務局が主導となって就職活動セミナーを実施しており、学生全体への支援を強化している。採用試験前の面接指導、提出書類の確認など、個別の対応についても担任教員に加え、事務局も協力して行っている。

学生からの相談には、担任教員が日常的に対応し、状況に応じてスクールカウンセラーや学生が所属する学科内の教員も対応している。相談内容によっては、保護者等の協力を仰ぎ、複数で対応する体制を整えている。

奨学金等の経済的支援については、公平に情報提供し適切に運用している。支援制度として、特待生制度、学費分納納入制度および高等教育の修学支援制度などがある。

学生の健康管理体制として、健康診断結果は適切に管理され、留意すべき学生については既往症などの情報を教職員で確認できるよう整備している。

学生の生活環境の支援として、寮の紹介などを行っている。

保護者等との連携は、学生状況(出席不良、成績不良、体調等)を、状況に応じて担任から保護者等への説明を行っており、コミュニケーションを図っている。

卒業生へは、校友会を通して就職支援などを行っている。

学科を超えて専攻分野とは別の能力を身に付けることができる学びの提供を提供する課外活動として、前期はグラフィックツール入門講座や AI 入門講座などのプラス α 講座(専攻分野とは別の能力を身に付けることができる学び)を実施した。後期は、全学科共通で実施するにあたって時間割の調整がうまくいかなかったこともあり実施できていない。

入学前教育として、学科の特性に応じた課題を課し、専門分野の事前学習を始める体制を整えている。また、学力不足を補うため、リメディアル教育(「学びラボ」)で個別に基礎学力の補填ができる支援を行っている。

【課題及びその改善方策】

プラスα講座は実施したものの、参加人数が思いのほか少なかった。本校の特色として、学科の専門分野がバラバラであり、それに伴って目標となる検定や課題作成、就職活動など、統一した時期での開講が難しいという問題がある。多くの学生が興味を持つ内容の選定や実施時期の問題などについて再検討を行う。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
5-1-1	学生の就職・進路支援を適切に行っているか。	S
5-1-2	学生相談に関する体制を整備しているか。	S
5-1-3	学生の経済的側面に対する支援制度を整備し、適切に運営しているか。	S
5-1-4	学生の健康管理を担う組織体制はあるか。	S
5-1-5	学生の生活環境への支援を行っているか。	S
5-1-6	保護者等との連携を適切に行っているか。	S
5-1-7	卒業生への支援体制を整備しているか。	S
5-1-8	学生の課外活動に対する支援を適切に行っているか。	S
5-1-9	社会人学生への支援体制を整備しているか。※	評価除外
5-1-10	学生に対する修学支援体制を整備しているか。	S
5-1-11	入学前教育や学力不足を補う補習教育などの学習支援を行っているか。	S

※社会人学生とは、学生のうち、職に就いている者（給料、賃金、報酬、その他の経常的な収入を目的とする仕事に就いている者）をいう。夜間学科及び通信課程を設定している学校が評価対象。

=====
基準 6 教育環境
=====

中項目6-1

教育運営に支障を生じさせないように教育設備を整備しているか。

【取り組み状況】

教育施設・設備については、設置基準を遵守し、定期的に動作確認などを行い適切に管理している。

教育機材と備品についても、備品管理台帳を整備し、数量不足や使用不備が発生しないように整備し、状況に応じて交換や追加で購入している。

【課題及びその改善方策】

課題はないが、今後も、機材・備品管理台帳を継続的に更新する。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
6-1-1	教育上の必要性に対応した施設・設備を整備し、維持・管理、安全・衛生を確保しているか。	S
6-1-2	教育上の必要性に対応した機材・備品を整備しているか。	S
6-1-3	図書室・図書コーナーがあり、図書館サービスは十分に機能しているか。	S

中項目6-2

教育環境を適切に維持しているか。

【取り組み状況】

学校における安全管理体制として、危機管理マニュアルの整備を行い、避難場所・避難経路については教室内に掲示している。

学内の防災対策に関しては、火災・地震発生時を想定した避難訓練を教職員が実施している。新型コロナウイルス感染症は落ち着いているが、引き続き必要に応じて入館時の検温、手指消毒、換気の徹底、教室内の消毒を行っている。

学外実習やインターンシップを実施している学科では、実施要綱、マニュアルなどが整備されている。また、実習やインターンシップ参加前には、説明会や実習前研修を行っている。インターンシップ、実習終了後は報告書の提出を求めており、振り返りを行っている。

【課題及びその改善方策】

課題は特にない。次年度は4月に学生を含めた避難訓練の実施を予定している。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
6-2-1	学校における安全管理体制の整備を行っているか。	S
6-2-2	定期的に防災訓練を実施しているか。	S
6-2-3	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか。	S

=====
基準 7 学生募集
=====

中項目7-1

学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。

【取り組み状況】

本校は、アドミッション・ポリシーを募集要項および公式ホームページに公表し、適正な募集活動を行っている。

入学選抜においては、「来校」または「オンライン」より選択し受験できるようにしており、遠隔地の学生や感染症拡大のリスクにも対応できるように実施体制を整えている。また、その運用に関するノウハウや情報を Microsoft Teams で共有することで、公正かつ適切に入学選抜を実施している。

【課題及びその改善方策】

課題は特になし。今後も引き続き、適正な募集活動を維持するため、選抜方法や選抜基準等を毎年見直し、適正かつ公平な入学選抜の実現に努めていく。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
7-1-1	入学者受け入れ方針(アドミッション・ポリシー)を策定し、学校構成員(教職員及び学生等)に周知し、社会に公表しているか。	S
7-1-2	募集活動において、教育成果を含めた学校情報は正確に伝えているか。	S
7-1-3	学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集を行っているか。	S
7-1-4	学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に入学者選抜を行っているか。	S
7-1-5	校納金(学生納付金)等は妥当なものとなっているか。	S

=====
基準 8 財務
=====

中項目8-1

教育活動を安定的かつ継続的に進めるため、財務基盤が安定し、適正な財務管理、監査の実施及び情報の公開を行っているか。

【取り組み状況】

財務基盤は安定しており、貸借対照表や資金収支計算書にみる各種残高および基本金積み上げ額は、学生に必要なかつ快適な教育環境を提供できる十分な財務体質を備えているといえる。

予算決算管理および昨年度対比による分析等の取り組みを継続する。その分析により重要な差異や変動を把握するとともに、対応策の検討・実施により、外部環境の変化等に耐え得る安定した財務基盤の維持を図る。

また、私立学校法及び寄付行為に基づき、監事による監査が適切に行われており、監査報告書を受領している。なお、ホームページにて、貸借対照表・収支計算書・財産目録・監査報告書を公開している。

【課題及びその改善方策】

特になし。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
8-1-1	教育活動を安定して遂行するために必要かつ十分な財政的基盤を確立しているか。	S
8-1-2	予算計画は有効かつ妥当なものとなっているか。また事業・予算計画に基づき適正に執行管理されているか。	S
8-1-3	私立学校法及び寄附行為に基づき適切に監査を実施し、理事会、評議員会に報告しているか。	S
8-1-4	財務情報公開の体制を整備し、適切に公開しているか。	S

=====
基準 9 法令遵守
=====

中項目9-1

法令、専修学校設置基準等を遵守し、適正に学校運営を行なっているか。

【取り組み状況】

学校法人麻生塾法務グループ・教育推進グループ等、関係部署と密に連携し、学校教育法、私立学校法、専修学校設置基準等を遵守し学校運営を行っており、届出・申請・報告などの手続きは確実に実施できている。法令に従い、個人情報保護、ハラスメント防止、危機管理に関する学内諸規程を整備し、適切に運用している。ハラスメントについては、「ハラスメント通信」(ハラスメント委員会から定期的に発信される社内報)を通じて、各自で理解度の確認ができるようにしている。

【課題及びその改善方策】

特になし。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
9-1-1	法令、専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか。	S
9-1-2	関係法令に基づく管理運営に関する学内諸規程を整備し適切に運用しているか。	S
9-1-3	法令遵守違反等に対応する体制を整備しているか。また、法令遵守等に関する研修・教育を行っているか。	S

=====
基準10 内部質保証
=====

中項目10-1

教育の質を保証する仕組みを構築し、教育内容等について自己評価を行い、課題解決に取り組んでいるか。また、教育情報を積極的に公開しているか。

【取り組み状況】

教職員全員で関連分野の自己点検・評価を行い、結果に基づき業務等の改革・改善を行うことを基本方針とし、本校の教育の質保証・向上への取り組みを行っている。

企業や施設関係者、地域住民、保護者等、高校教員、卒業生などで構成される学校関係者評価委員会で自己点検・評価の報告を行い、そこで指摘された意見をもとに改善に取り組んでいる。

改善案などの意見を取り入れた自己点検評価・報告書と学校関係者評価報告書をまとめ、本校のホームページで公開している。

【課題及びその改善方策】

特になし。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
10-1-1	学校教育、学校運営について、組織的に自己点検・評価を実施しているか。	S
10-1-2	自己点検・評価の結果に基づき、学校教育と学校運営の質の改善と向上のための取組みを組織的に、積極的かつ継続的に行っているか。	S
10-1-3	学校関係者評価の実施体制を整備し、学校関係者評価を実施しているか。	S
10-1-4	学校関係者評価結果をもとに改善の取組みを行っているか。	S
10-1-5	自己点検・評価及び学校関係者評価の結果を公表することで社会に対する説明責任を果たしているか。	S

=====
基準11 社会貢献・地域貢献
=====

中項目11-1

公共的な機関として、資源を活用して社会的な活動や地域貢献活動を行っているか。

【取り組み状況】

学校運営に必要と判断した場合、積極的に関連団体へ加盟しており、現在は、北九州市産業経済局企業立地支援課と常に連携し、地域貢献活動における本校の役割について協議している。複数の学校から依頼を受け、体験授業の実施のほか、高校に出向いての出張授業を実施している。また、年に2回、高校生向けに学内での医療事務講座を開講している。

行政と連携した北九州高校生イラストコンテストを実施するなど、社会活動、地域貢献活動を行っている。

ボランティアイベントは青少年ボランティアステーション(北九州市)から定期的に紹介いただき、全学科、担任教員を通して学生へ案内している。

【課題及びその改善方策】

特になし。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
11-1-1	学校の教育資源や施設を活用し、社会貢献・地域貢献を行っているか。	S
11-1-2	学生のボランティア活動を奨励、具体的な活動支援をしているか。	S

=====
基準12 国際交流
=====

中項目12-1

留学生の受け入れ、海外への留学における学習支援や生活指導等を適切に対応し、管理体制を整備しているか。

【取り組み状況】

今年度は留学生の在籍者はいなかった。

海外語学留学プログラムの学内説明会を行い、別途個別相談の場も設けている。申し込み者に対しては、オリエンテーションや英語勉強会を実施しており、学生・保護者等向けの説明会では、渡航先情報や必要な準備、現地での心構え、たびレジ(外務省からの最新の安全情報を日本語で受信できる海外安全情報無料配信サービス)等の情報共有を行っている。学生とはチャット等の連絡ツールで常時連絡が取れるようにしており、質問や相談の受付、情報共有等を行っている。外部留学エージェント経由で留学する学生については、エージェントと渡航情報を共有し、必要に応じて学生本人や保護者等からの相談に対応している。

【課題及びその改善方策】

特になし。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
12-1-1	海外留学プログラムに対する支援を適切に行っているか。	S